プログラム　Program

13:00～13:10

開会挨拶・・・・・会長　武井　俊文

13:10～13:50

「海なる地球と科学」

理事　末廣　潔

13:55～14:35

「海洋科学技術センターの技術研究の
現状と近未来への展望」

海洋技術研究部長　青木　太郎

14:40～15:00　休憩（コーヒーブレイク）

15:00～16:15

特別講演
「失敗学のすすめ」

講師：畑村 洋太郎
工学院大学教授

16:15～17:15

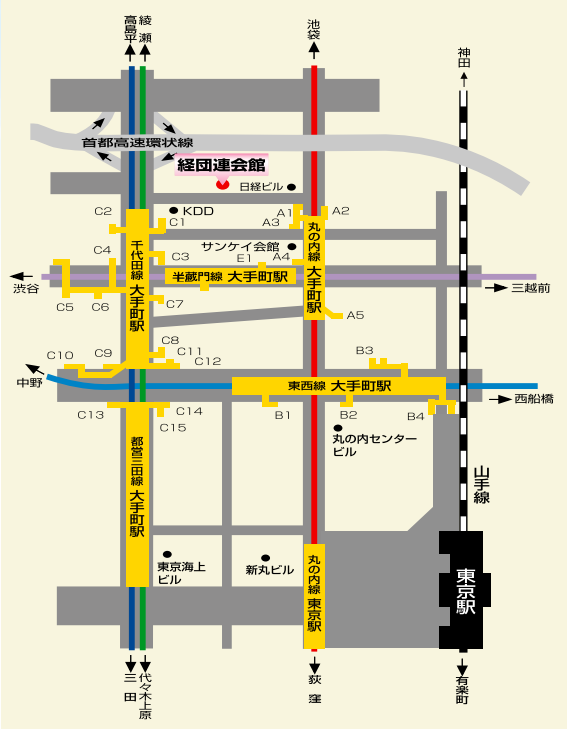
特別講演
「文明の海洋史観」

講師：川勝 平太
国際日本文化研究センター教授

17:15～17:25

閉会の挨拶・・・・・理事　木下　肇

アクセス　Access



開催場所

経団連会館14階　経団連ホール
〒100-0004　東京都千代田区大手町1-9-4
TEL 03-5204-1500（大代表）

電　車

地下鉄丸の内線「大手町」下車1分

駐車場

200台収容（地下1階～3階）

開館時間

午前9時～午後9時

お問い合わせ

海洋科学技術センター 企画部 計画管理課
TEL 046-867-9233
ホームページアドレス　http://www.jamstec.go.jp/

JAMSTEC 2004

海洋の科学と技術、次世代への展望

平成16年3月25日(木)
13時～17時25分
経団連ホール（経団連会館14階）

参加費無料

海洋科学技術センター

ご挨拶　Greeting

海洋科学技術センター会長
武井　俊文

海洋科学技術センター理事長
平野　拓也

海洋の科学と技術、次世代への展望

1971年10月、海洋科学技術の総合的な試験研究を行うことを目的として、科学技術庁（当時）の認可法人として海洋科学技術センターが設立されました。

当センターは、1970年代の模索と基盤づくりの時代から始まり、1980年代は深海研究・海洋研究の幕開け、1990年代はグローバルな海洋研究の展開、21世紀に入ると「地球と生命の探求」をテーマとして邁進して参りました。この度、当センターは平成16年4月1日をもって解散され、独立行政法人海洋研究開発機構として生まれ変わることとなりました。

本年度の報告会では、「海洋の科学と技術、次世代への展望」をテーマとして、これまで当センターが実施してきた活動について、創設以来32年間の歩みと成果を振りかえるとともに、新法人へ向けての展望について紹介します。

また、特別講演として、失敗を積極的に捉え次の創造へつなげる新しい失敗文化を築いた工学院大学の畑村洋太郎教授に講演を頂きます。さらに、歴史の大きな枠組みについて常識をくつがえす斬新な「文明の海洋史観」を提唱した国際日本文化研究センターの川勝平太教授に講演を頂きます。

海洋科学技術センターは皆様とともに、海洋と地球の探究を通じて人類の未来を切り拓くべく努力して参りましたが、独立行政法人海洋研究開発機構となりましても、皆様の一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

特別講演　Special Lecture

「失敗学のすすめ」

工学院大学　教授
畑村 洋太郎

失敗をしたいと思う人はいない。それなのに失敗は起こる。なぜか。それは失敗をあってはならないこととだけ考え、失敗のプラス面を考える広く深い考え方をしないからではないだろうか。

失敗学では、人や組織が成長・進歩を求めるときに必然的についてまわる失敗を“許される失敗”として、同じ愚を繰り返す“許されない失敗”と区別し、失敗を通じて獲得する“体感・実感”が真の科学的な理解をもたらすことを説く。失敗を通して技術が進歩した例、正しい情報発信によって同種の事故が根絶された例を挙げる。一方、三陸の大津波のような大災害の教訓さえ次第に忘れられることから、失敗経験が風化しやすいことを示す。失敗学では失敗経験を正しく伝達するには上位概念に登って知識化することの重要性を説き、そのための方策を提案する。

一方、失敗が個人や組織の手抜きやインチキで起るのではなく、産業や社会の成熟と密接に関連しており、マニュアルの形骸化や組織の縦割りから隙間領域が生じ、それから種々の失敗が生じていることを示し、従来の固定的な物の見方から離れ、自ら考え行動することの大切さ、それを実効たらしめる出力型学習の大切さを説く。

特別講演　Special Lecture

「文明の海洋史観」

国際日本文化研究センター教授
川勝 平太

『文明の海洋史観』(中公叢書)での私の主張は、執筆当時には「読者には荒唐無稽に聞こえるかもしれない」という懸念がありました。近代文明はアジアの海から誕生した、正確にいえば、海洋アジアからのインパクト（圧倒的な影響）に対するレスポンス（対応）として、日本とヨーロッパに近代文明が出現した、という主張です。これは、日本が欧米社会へのキャッチアップで近代文明を形成したという通念に対する異議申し立てです。少し正確にいえば、英国が最初に産業革命を経験し、他の欧米諸国がそれに続き、明治以後に日本はその後塵を拝して現代に至ったという通念に対する反論です。そこには、戦後日本の知識人の心をとらえた「唯物史観（奴隷制－封建制－資本主義－社会主義）」というマルクス主義の歴史観を退ける意図がありました。返す刀で、唯物史観に対する反論として知られる「文明の生態史観」も、唯物史観と同じ陸地中心の見方だ、と切って捨てました。幸い、多くの読者を得ています。過去の見直しは未来図を変えます。歴史の曲がり角に立つ日本の将来指針を、海洋的観点から思い切って提示して、ご批判を仰ぎたいと思っています。